平成２４年度山形県藻場保全活動報告会

酒田北港藻場保全活動組織
副代表　　守屋元志

１．活動組織の運営

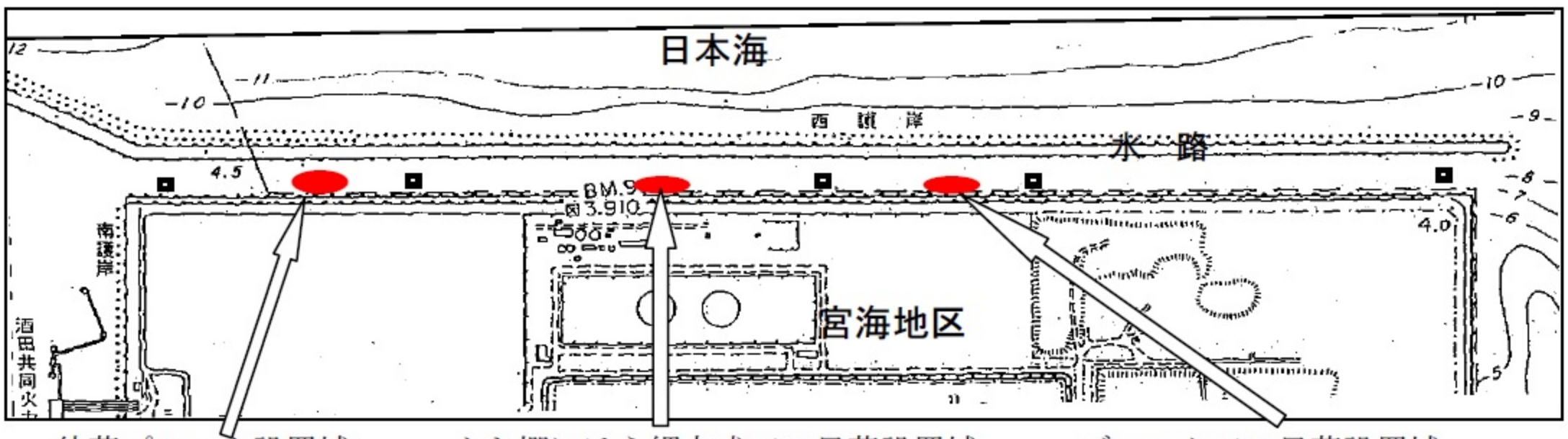
・活動組織の発足年月日　　平成 21 年 10 月 26 日

・構成員の数と形態

構成員　地域住民：１４人（内漁業者４名）　NPO：６人

構成員以外の協力者　西荒瀬小学校　釣り人　釣り具商組合

２．保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題



活動場所は小型船舶が外海から港内に出入りする水路で、防波堤の内側で幅 50m、長さ 1750m、水深 3.5～4.0m。底は砂地で、あちらこちらに沈石があり、アカモクの生息が確認できることもあるが、風が強いと底の砂が舞い上がるので生息はむずかしい。しかし、岸壁の壁面にはアカモクや貝類の生息が確認できる。本活動では、岸壁の垂直面を対象とし、ケレンや食害生物の除去を行うことで、藻場の造成を試みる。

潮の流れが速く、荒れる海域にいかにしてより多くの藻場を増大させられるか。また、流れの速い壁面をいかにしてケレンするかが課題である。

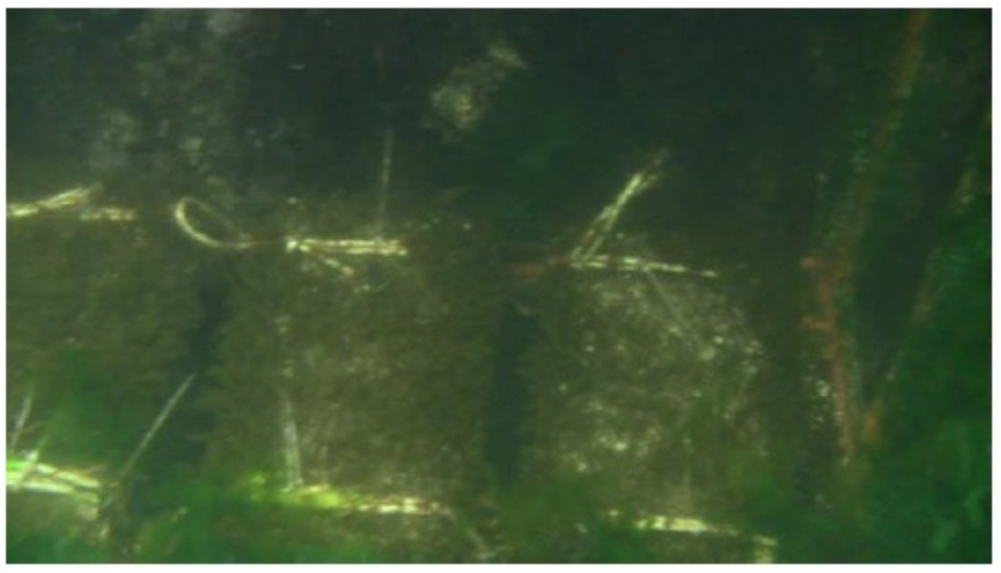
３．平成 24 年度の実施状況及び効果

① ブロックでの母藻設置

◆６月３日ブロックでの母藻設置

◆７月２４日ブロックのモニタリング記録

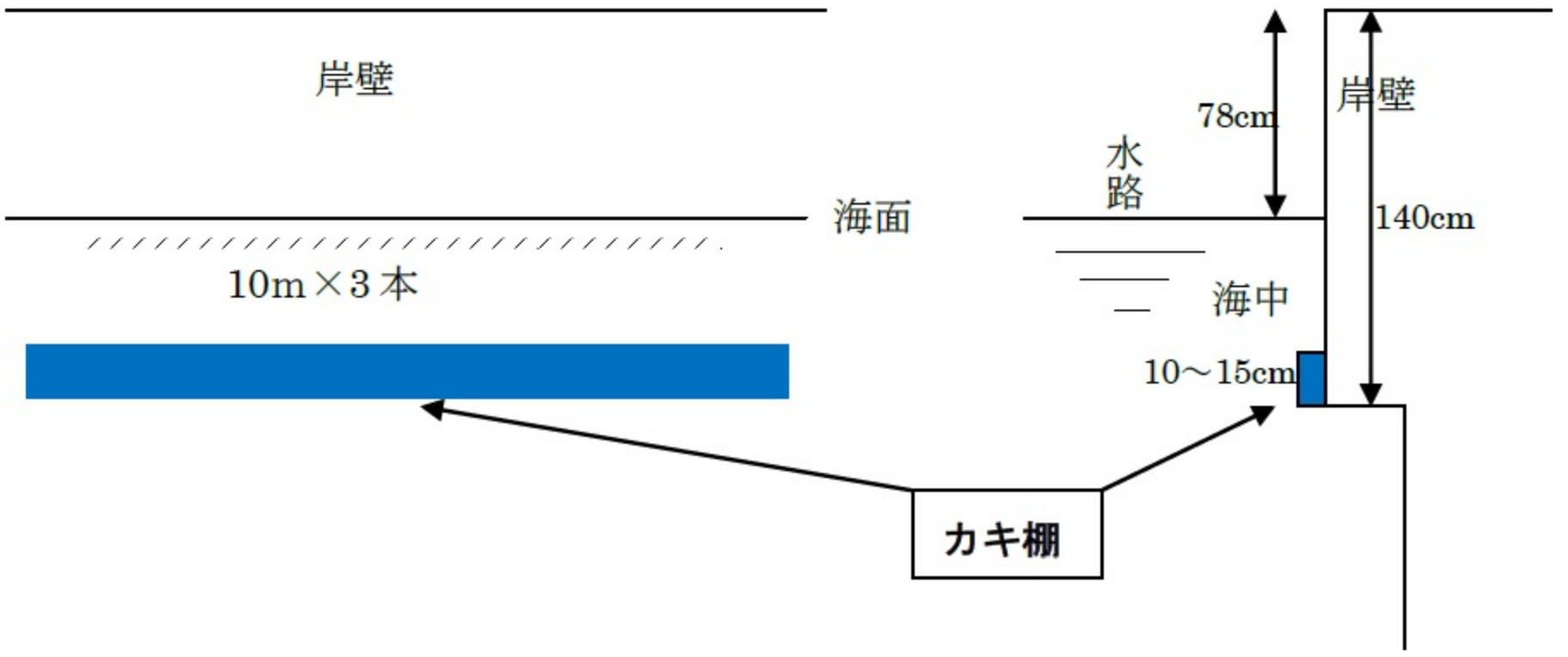
海に向かって左側　水深 1m　ブロック 10 個		海に向かって右側　水深 1.5m　ブロック 10 個	
1	アカモク・ヨレモク　8 割	1	アカモク薄い・ヨレモクなし　10 割
2	アカモク・ヨレモク　5 割	2	アカモク薄い・ヨレモクなし　10 割
3	アカモク・ヨレモク　7 割	3	アカモク薄い・ヨレモクなし　10 割
4	アカモク・ヨレモク少ない　9 割	4	アカモク・ジョロモク　9 割
5	アカモク・ヨレモク少ない　9 割	5	アカモク少し　9 割
6	アカモク・ヨレモク少ない　10 割	6	アカモク少し　9 割
7	フジスジモク母藻残る　10 割	7	ジョロモク　8 割
8	アカモク・ヨレモク少し　10 割	8	ジョロモク　8 割
9	アカモク・ヨレモク　9 割	9	ジョロモクが主・アカモク・ヨレモク　9 割
10	アカモク・ヨレモク少し　7 割	10	ジョロモクが主・アカモク・ヨレモク　9 割



◆９月２９日ブロックの引き上げ　ブロックをはしご段にしてフックにかけて再設置

◆１１月５日フックへかけたブロックの引き上げ　再設置

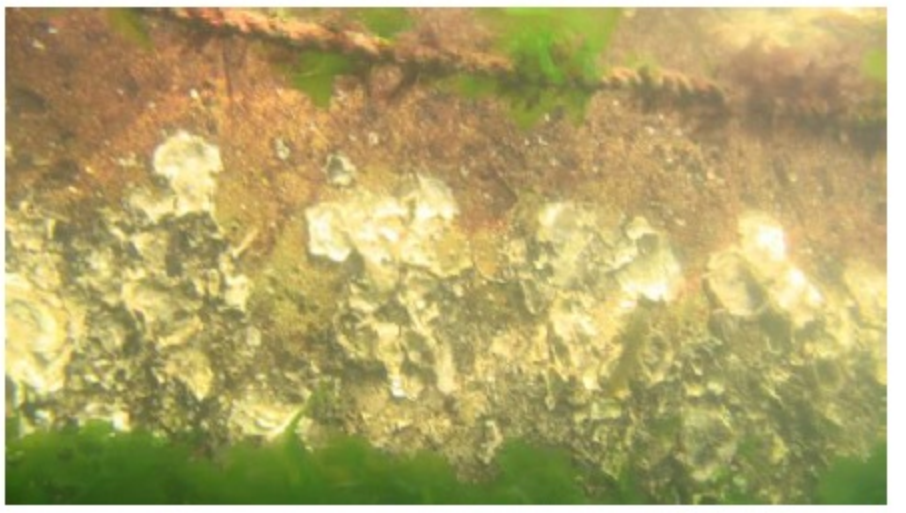
② カキ棚にはえ縄方式での母藻設置



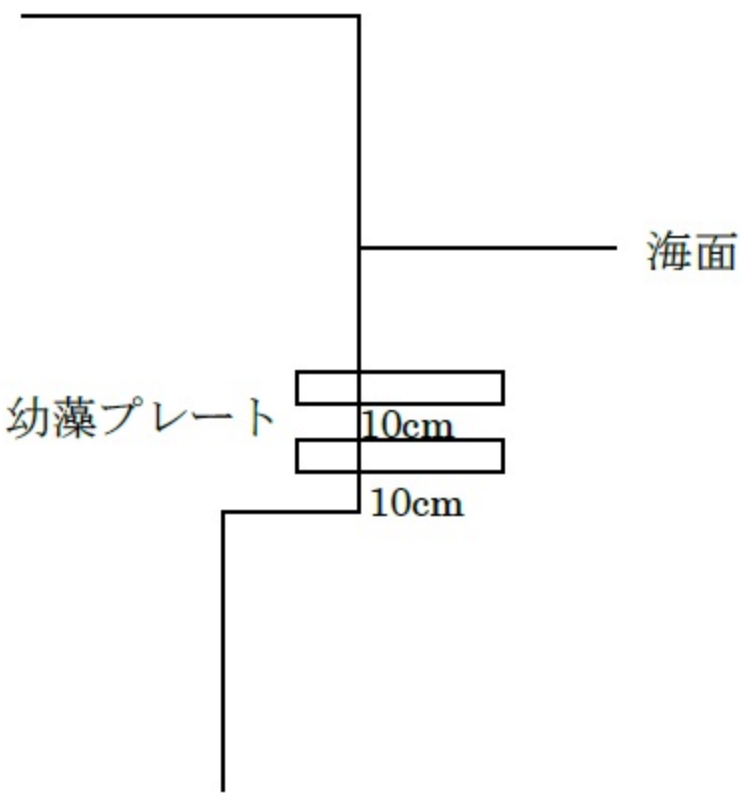
◆6月4日カキ棚へのはえ縄方式による母藻設置

◆7月6日カキ棚へのはえ縄方式で母藻設置したモニタリング

◆7月16日カキ棚へのはえ縄方式による母藻海中モニタリング



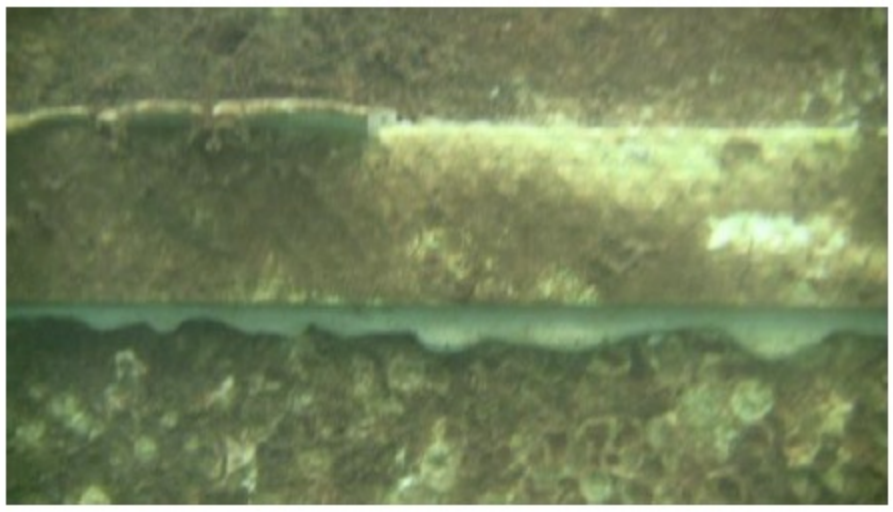
③ 岸壁への幼藻プレートの設置



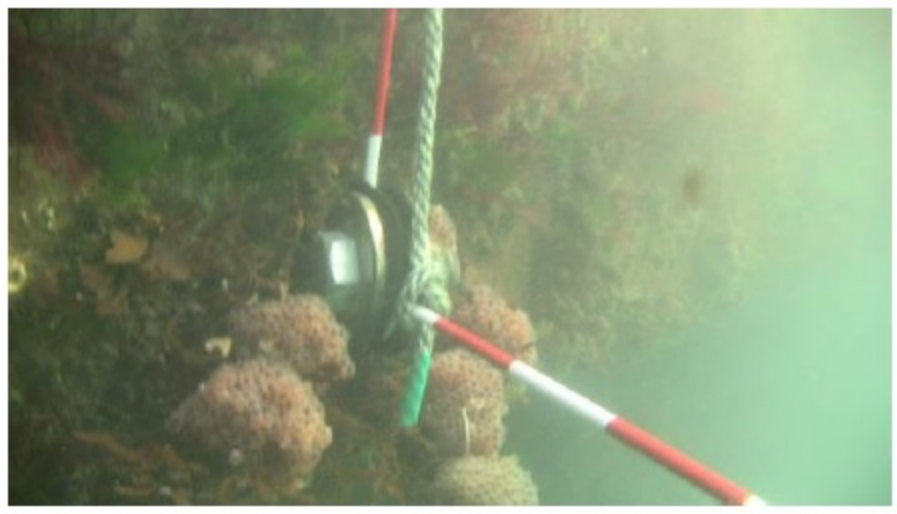
◆９月２６日・２７日と１０月２２日に幼藻プレート設置（３箇所）

◆11 月 5 日幼藻プレートの海中写真

◆12 月 3 日陸から幼藻プレートの写真



◆12 月 29 日幼藻プレートの海中モニタリング



３．平成２１～２３年度の活動状況

○２１年度は、山形県庄内沿岸地域に藻場保全活動組織、酒田北港と吹浦地域の活動組織を発足させることでした。

○２２年度の酒田北港の保全目標は、日本全国でどこもやっていない難易度の高い壁面にアカモクを増殖する活動でした。

○２３年度 全国で壁面による藻場増殖の成功例が無い中で、自分達で創意工夫した保全活動になりました。結果、プレートのアカモクにハタハタのブリコを３個産卵する成果が確認できました。そして、成長したアカモクには多くの小魚達が群がっていました。

又、環境生態系保全活動支援事業が「酒田北港藻場保全活動組織は、藻場環境を増大するために子ども達と漁業者とＮＰＯとの連携により保全活動に取り組んでおります。豊かな海は、やがては漁業者の漁獲高に繋がりそして釣人の皆さんを楽しませてくれます。」と題し西荒瀬小学校の子ども達と壁絵を制作しました。そして壁絵の周辺や北港のゴミ拾い活動をやりました。

４．今後の課題

○２５年度、壁面に何かにしてアカモクを成長させるか、継続する。

○北港水路の沈石にアカモクを成長させる。

○離岸堤北側先のテトラにアカモクを成長させる。

○南護岸の温排水を活動域としてアカモクを成長させる。